

決算説明資料

2019年度 第3四半期決算

岩崎通信機株式会社

**あらゆる人やモノを繋ぐコミュニケーションで、
生きがい溢れる社会創りに貢献する**

We connect the world,
striving towards building
a society for tomorrow.

◇2019年度 第3四半期実績（2019年4～12月）

1. 連結業績
2. セグメント別業績
3. 連結貸借対照表

◇2019年度 通期業績予想

4. 業績予想
5. 投資予測
6. 配当予測

◇トピックス

7. 当社の新たな取り組みのご紹介

2019年度 第3四半期実績 (2019年4～12月)

1-1. 連結業績

(単位：億円)

	2018年度 第3四半期	2019年度 第3四半期	増減
	実績（連結）	実績（連結）	
売上高	136.3	147.6	11.2
情報通信	95.6	106.9	11.3
印刷システム	18.4	16.7	△1.7
電子計測	20.2	21.3	1.0
不動産	2.1	2.7	0.6
営業利益	△10.8	△6.0	4.8
情報通信	2.3	6.2	4.0
印刷システム	△0.8	0.1	0.9
電子計測	△0.5	△1.4	△0.9
不動産	0.4	0.7	0.3
調整額	△12.2	△11.6	0.6
営業外損益	0.4	0.6	0.1
経常利益	△10.3	△5.4	4.9
特別損益	1.7	△0.1	△1.9
法人税等	△3.8	0.1	3.9
当期利益	△4.8	△5.7	△0.9

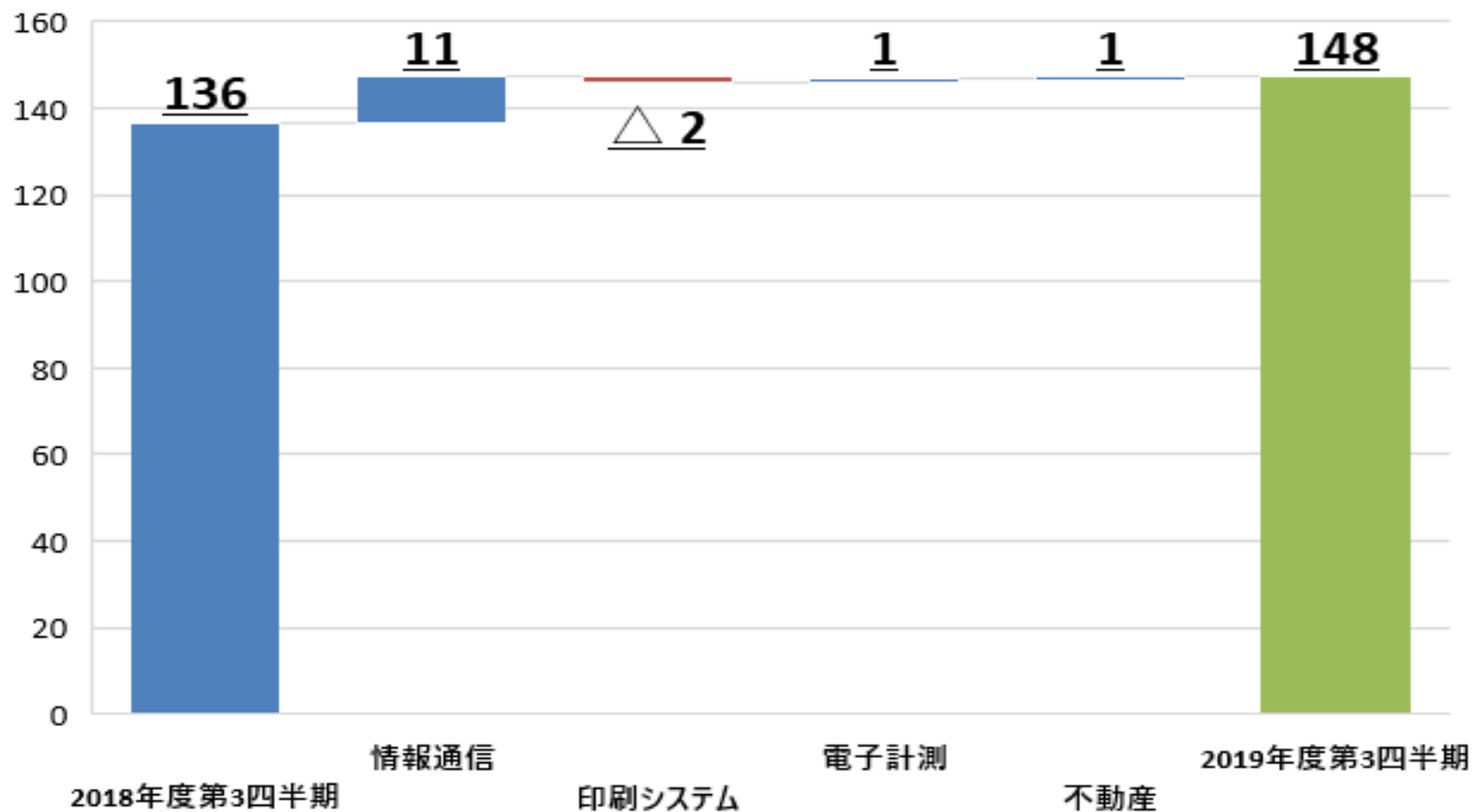
※保有不動産の賃貸及び管理を事業化したことに伴い、18年度について組み替えて表示。

1-2. 連結業績

連結売上高の増減

■ 増加 ■ 減少 ■ 合計

(単位: 億円)



2-1. セグメント別業績（情報通信）

（単位：億円）

	2018年度 第3四半期	2019年度 第3四半期	前期比
	実績（連結）	実績（連結）	
売上高	95.6	106.9	11.3
売上高構成比	(70.1%)	(72.4%)	(2.3%)
セグメント利益	2.3	6.2	4.0

- 売上高は、主に中小事業所向けビジネスホン及びコンタクトセンタソリューションの売上高が増加したことにより、前期比+11.3億円の増収。
- セグメント利益は、売上高の増加に伴い、前期比+4.0億円。



Frespec
フレस्पек



2-2. セグメント別業績（印刷システム）

（単位：億円）

	2018年度 第3四半期	2019年度 第3四半期	前期比
	実績（連結）	実績（連結）	
売上高	18.4	16.7	△1.7
売上高構成比	(13.5%)	(11.3%)	(△2.2%)
セグメント利益	△0.8	0.1	0.8

- 売上高は、主に前年同期の印刷機の特殊案件剥落により、前期比△1.7億円の減収。
- セグメント利益は、売上高の減少に対して、原価率の改善により、前期比+0.8億円。



LabelMeister
EM-250H



きりっ子 KIRIKKO Multi Card Slitter
MC-22T Plus

2-3. セグメント別業績（電子計測）

（単位：億円）

	2018年度 第3四半期	2019年度 第3四半期	前期比
	実績（連結）	実績（連結）	
売上高	20.2	21.3	1.0
売上高構成比	(14.8%)	(14.4%)	(△0.4%)
セグメント利益	△0.5	△1.4	△0.9

- 売上高は、主に航空宇宙関連の売上高が増加したことにより、前期比+1.0億円の増収。
- セグメント利益は、売上高構成の変化に伴う原価率の悪化により、前期比△0.9億円。



© JAXA



VIEWGO II

2-4. セグメント別業績（不動産）

（単位：億円）

	2018年度 第3四半期	2019年度 第3四半期	前期比
	実績（連結）	実績（連結）	
売上高	2.1	2.7	0.6
売上高構成比	(1.5%)	(1.9%)	(0.3%)
セグメント利益	0.4	0.7	0.3

- **売上高は、主に当社敷地内の保有資産の有効活用により、前期比+0.6億円の増収。**
- **セグメント利益は、売上高の増加に伴い、前期比+0.3億円。**

3. 連結貸借対照表

(単位：億円)

	2019年 3月末	2019年 12月末	増減	主な増減要因
流動資産	185.7	178.1	△7.6	・受取手形及び売掛金△16.5、商品及び製品+9.4 等
固定資産	108.4	103.6	△4.8	・投資その他の資産△4.5 他
資産合計	294.1	281.7	△12.4	
流動負債	38.6	32.7	△5.9	・賞与引当金△2.6、その他△3.0 等
固定負債	58.7	58.4	△0.3	・退職給付に係る負債△0.2 他
負債合計	97.3	91.1	△6.2	
純資産	196.8	190.6	△6.2	・利益剰余金△6.7、その他有価証券評価差額金+0.4 等
負債・純資産合計	294.1	281.7	△12.4	

2019年度 通期業績予想

4. 業績予想

(単位：億円)

	2018年度 通期	2019年度 通期	前期比
	実績 (連結)	計画 (連結)	
売上高	208.5	223.0	14.5
営業利益	△2.2	0.5	2.7
経常利益	△1.5	1.0	2.5
当期利益	4.1	0.2	△3.9

【2019年5月15日発表の業績予想から変更なし】

開発費の増加による損益面での負担が見込まれるため、売上高は前期比+14.5億円ではあるが、営業利益は前期比+2.7億円の見込み。

5. 投資予想(連結)

(単位：億円)

	2018年度 通期	2019年度 通期	前期比
	実績 (連結)	予想 (連結)	
有形	39.0	5.9	△33.2
無形、他	1.7	5.0	3.3
設備投資 合計	40.7	10.8	△29.9
研究開発費	14.7	17.4	2.7
減価償却費	9.9	8.1	△1.8

- 設備投資** : **有形投資△33.2億円**
 (前期は新規の収益物件36.7億円)。
- 研究開発費** : **主力製品の後継機の開発開始により+2.7億円。**
- 減価償却費** : **前期までは過年度の研究開発投資による償却費があったため、△1.8億円。**

6. 配当予想

(単位：円)

	2018年度	2019年度	前期比
	実績	予想	
中間配当	0.0	0.0	-
期末配当	10.0	未定	-
合計	10.0	-	-

●2019年度

- 期末配当予想額は未定とさせていただきます。

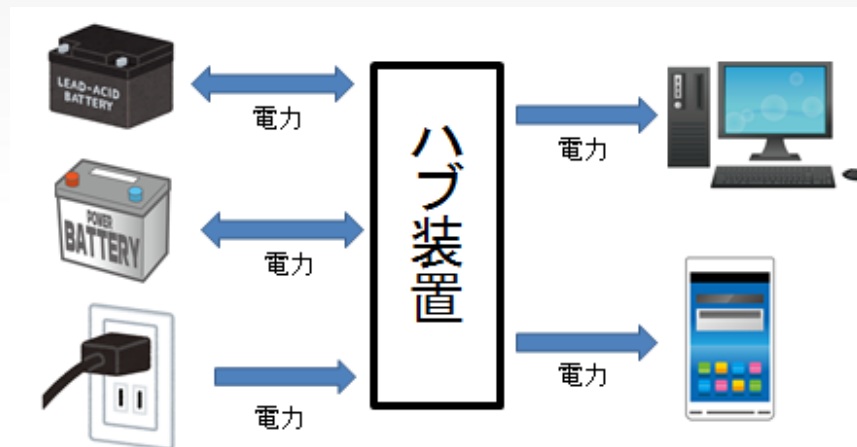
トピックス



7-1. バーチャルグリッド

- 2019年12月13日付 日刊工業新聞にて、電気通信大学、NTT東日本及び当社で共同開発した「バーチャルグリッド」についての記事が掲載されました。

バーチャルグリッドとは、
**「大きさや規格の異なる蓄電池をつなぎ
電力網を構築する技術」**です。



今回共同開発したシステムは、どのような市場において応用できるかを検討するための検証用のシステムです。

本システムは、例えば、自然災害等により停電が発生しても継続して動作させなくてはならない医療機器の電源として利用する等、様々な応用が考えられます。

今後、様々な市場や用途を想定した実証試験を行い、市場ニーズを確認していきたいと考えています。

7-2. 遠隔残量監視システム

■ 2020年1月6日 遠隔残量監視システム「EyeOwl（アイオール）」 JA宮崎中央 農業用重油タンク監視に採用

LPWA（Low Power Wide Area 省電力広域無線技術）を用いた遠隔残量監視システム「EyeOwl（アイオール）」が宮崎中央農業協同組合の農業用重油タンク監視に採用されました。

このシステムは、西日本電信電話株式会社 宮崎支店、株式会社宮崎県農協情報センターと3社で実施した実証確認を経て、当社が2019年10月にサービスを開始したものです。

